



みやがわ のりみつ
宮川 徳光 議員

学校教育

GIGA スクールの課題は 端末のより効果的な活用を

問 前年度、今年度にかけて全国の教育現場にてGIGA(※1)スクール構想による高速大容量通信ネットワークのインフラ整備がされた。当町の整備状況、また、今後の課題と対策を問う。

※1:GIGAスクールとは、
Global:世界的な(and)
Innovation:革新
Gateway:異なるコンピュータ間を接続する
All:(for)全ての人の頭文字で、ICT(※2)を活用し、新しい教育へシフトしていくもの。

※2:ICTとは、
Information:情報(and)
Communication:通信
Technology:技術の頭文字で、「情報通信技術」の略。

答 畦地教育長

文部科学省では、現代を生きる全ての子どもの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するために、学校現場におけるICT(※2)の積極的な活用が不可欠との観点から、GIGAスクール構想を推進し、本年4月から全国のほとんどの義務教育段階の学校において、児童生徒の1人1台端末

及び高速容量の通信環境の下での、新しい学びがスタートした。

本町も、小学校の児童用390台と教員用60台、中学校の生徒用200台と教員用39台のタブレット端末が配備され、各校で活用されている。

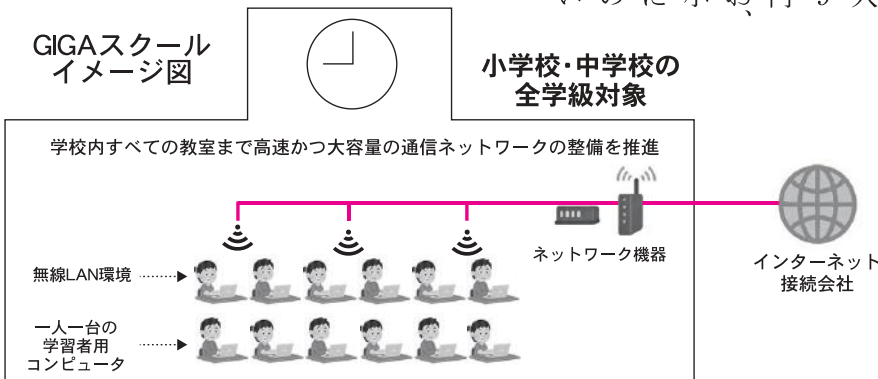
タブレット端末の導入経費は、小学校2249万円、中学校526万円の計2775万円。なお、中学校用200台は、小学校のパソコン教室に配備済みの端末を使用のため、経費は掛かっていない。

なお、各校の情報通信ネットワーク環境は、令和2年度に総事業費4686万円で整備した。また、今後の一番の課題は、端末を学びのための道具として、いかに効果的な活用が出来るかだ。

その他、端末の持ち帰り学習への対応があり、現在、端末を安全・安心に持ち帰りが出来る環境づくりを行っている。また、情報モラルや教育内容などがある。

まずは使ってみながら、GIGAスクール構想の真の目的の「個別最適な学び、協働的な学び」につながる効果的な活用方法を追求していかねばならない。

GIGAスクール イメージ図



タブレット端末を使っている授業中の一コマ。現在、授業のツール(道具)の一つとして使い方を模索中とのこと(令和3年6月下旬、南郷小学校にて)